

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500033		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホーム九十九の里		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦802番地8		
自己評価作成日	令和 2 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の中途退職もなく退職後もパートで勤務され明るく元気なアットホーム的な職場です。毎月の消防避難訓練、毎年の介護教室を開催していましたが、今年度はコロナの影響で開催を断念しましたが、来年度は開催を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造2階建ての当ホームの周囲には自然豊かな環境が広がり、近くの小川に沿って入居者と職員と一緒に散歩したり、1階ウッドデッキで日向ぼっこし会話しながら地域住民とも挨拶を交わすなど、地域に溶け込んだホームであることが窺える。管理者はホームが木造建築物であることから防火への認識が特に高く、毎月消防自主訓練を行うことで有事の際における職員の役割や連携体制を確認し、防災意識の向上に繋がっている。コロナ禍の影響により地域との交流や外出が難しい現状であるが、職員はホーム近隣での散歩など可能な限り外気に触れる機会をつくり支援している。代表者は「仕事を超えたもう一歩踏み込んだ介護・・・家族と思って」と職員が持つて欲しい使命感を示すことで、入居者・家族・職員・管理者がそれぞれの立場を越え、ホーム全体の家族的な結びつきができています。コロナ禍の影響により毎年実施していた介護教室は中止しましたが、地域住民から好評を得ていた取り組みでもあり、今後の再開が待たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム九十九の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心して暮らすということ」「自分らしく生きるということ」をもとに職員は心掛けている。	ホーム正面玄関にホームの理念である「安心して暮らすということ」「自分らしく生きるということ」を掲示し、毎日唱和することで職員間での共有を図っている。職員間の異動はなく、安定した入居者支援やホーム取り組みの定着へと繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事への参加や、慰問、中学生職場体験受け入れなど地域の方々とのつながりを深め交流をふかめたいがコロナウイルス感染予防の為に控えている。窓越しには声掛けなどはされている。	コロナ禍以前は地区のおくちや夏祭り・文化祭への参加のほか、中学生の職場体験の受け入れなど地域と積極的に交流していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により制限している。管理者はコロナ禍収束後に中断している地域交流を再開していく意向であり、今後の関係継続再開への取り組みが待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年1度、介護教室を開催し、地域の皆さんを参加を呼びかけていたが今年はコロナウイルス感染拡大予防のため中止した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が参加した研修内容の報告や手作り新聞による入居者の動向報告を行っている。	運営推進会議は入居者・家族・元地区長・市担当者・社会福祉協議会職員・代表者・管理者などで構成し開催しているが、今年度はコロナ禍のため職員等で運営推進会議を開催し、議事録を構成メンバーに送付し意見を聴取している。これまでも構成メンバーから出された意見は具体的に運営へ反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議に参加していただきたいがコロナの関係で書面会議で事業所の実情や取り組みを伝え議事録を毎回提出している。	コロナ禍の影響により、定期的に運営推進会議へ参加していた市担当者とは書面を通じてホームの活動状況等を伝えている。また、普段から電話やメールを介した情報交換を行っており、特に新型コロナウイルス感染症に対する情報収集や連絡を行い良好な関係を築いている。平成15年より地区の公民館で実施していた介護教室は中止しており、今後の再開が待たれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修には積極的に参加し、報告を行っている。また3か月に1回身体拘束廃止委員会を実施して社内研修に取り組んでいる。又夜間のみ玄関の施錠をしている。	ホームでは身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、運営推進会議でヒヤリハットや事故報告を含めた活動報告を行っている。外部研修への参加はコロナ禍のため自粛しているが、DVDを活用しながらホーム内でも身体拘束及び虐待防止に関する研修を行い、職員の意識向上や支援内容の振り返りに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行きたいがコロナの件で外部研修がなくDVDで見て日々の振り返りなどで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナで研修がなくなり学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族への説明時は、理解しやすいような言葉使いを心掛け、不安や疑問が解決でき十分に理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の生活の中で観察や声掛けを行い思いを引き出している。家族の方には、面会時や電話等で、意見や要望を聞く機会を設けている。	コロナ禍により面会の機会を制限しているが、管理者及び職員は状況に応じて家族と玄関先で話をしたり、必要に応じて電話・メールなどで意見や要望を確認している。入居者の意見や要望等は職員が普段の会話から聞き取り、申し送りノートに記録し職員間での情報共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員、ケース会議を開催し、意見や要望を聞きコミュニケーションを図っている。また、日頃より相談しやすい環境作りを心がけている。	ホームでは職員会議及びケース会議を毎月開催し、職員からの相談や提案について活発な意見交換を行っている。また、管理者が日頃から休憩時間などを通して職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や要望等の声を吸い上げて必要に応じて運営に反映している。希望休や有給休暇を取得しやすい職場環境で、職員の定着へと繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当などを設けまたそれぞれ役割担当を持ちやりがいを感じられる様努めている。希望休や有給が取りやすい環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナで外部研修が少ない中どうしても必要な研修は参加してもらい職員一人一人が自分に必要とする研修についてはDVD、WEB会議に意識を持って参加できるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防の為以前同系列のグループホームと行事など行っていたがここ所行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にこちらから面接に出向き安心して頂けるようゆっくりと傾聴し、信頼関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに、本人、家族と話し合いをする場を持ち、相談しやすい環境づくりや本人が安心して生活できる環境を提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の相談内容により状態に応じたサービス利用の説明を行い適切支援ができるよう選択肢を提供し対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを可能な限り取り組めるように一緒に体操をしたり、洗濯物たたみ、食事下膳、掃除などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を共有し、本人、家族の絆を大切に、それぞれの相談しやすい環境作りを心がけ支援出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、馴染みの方の面会、電話、外出支援、帰宅支援に努め本人の希望に添えるようまたこれまでの関係が途切れない様支援している	コロナ禍により入居者の親族や友人等との面会制限を行っている。以前は親族や友人のほかに近隣住民の方の面会も自由にあり、入居者との馴染みの付き合いができていた。尚、手紙を通じたやり取りや希望者には携帯電話を持ち込んでもらうなど、入居者のこれまでの関係が継続できるよう引き続き支援を行う意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者との交流が図れるよう、体操やなどの活動時間を設け参加を促している。また家事手伝いでもそれぞれ役割分担し協力し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者、家族の要望があれば、必要に応じた支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子を見て本人や家族と話し合い希望や意向の把握に努め本人が望む暮らしが出来るよう支援している。	職員は入居者との日頃の会話の中から本人の思いや意向の把握に努め、発語が困難な方には表情から汲み取ったり、難聴の方には必要に応じて筆談するなど工夫している。汲み取った入居者の意向は申し送りノートや個人記録に記載することで職員間で共有し、介護計画への反映に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を参考にし、これまでの生活歴や環境本人が望む暮らしが反映されていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の行動パターン等日常生活の中で心身状態にあった過ごし方や有する力を発揮できる様な環境を心がけ一人一人の状態を把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人一人に担当スタッフを設け、ケアのあり方、今後の課題などを事前に話しあっている。その後職員でケース会議を開き意見、アイデアを反映した、介護計画の作成に努めている。	ホームでは入居者一人ひとりに対して担当職員を設けている。職員は定期的なモニタリングとケアカンファレンスを通じて入居者の現状を把握するとともに職員間で共有し、本人の意向を確認しながら入居者の残存能力を引き出せる介護計画の立案に取り組んでいる。職員の気づきやアイデアを積極的に採用し、家族とも意見交換しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の介護日誌への記録を残し、特変や気づきがあった場合付箋を用いたりメモ用記録に残し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身状態にあったサービスが提供できるようにスタッフ間で話し合い、本人や家族の意見を取り入れながら柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの影響で地域のかかわりが持てなくお祭り等の行事等簡素にされていたためホームでお食事のみにした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、納得されるかかりつけ医を定期的に通院介助している。受診時には相談報告を行い、連携に努めている。	コロナ禍にある現在、医療機関で直接受診することが困難、且つ入居者に特段の変調がない場合に限り、医師への報告や相談を電話で行うことで適切な処方へと繋げている。また、入居者の状況に応じて訪問診療にも対応している。入居前のかかりつけ医や専門医への受診についても、入居者本人や家族の希望を尊重し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で異常を早期発見できるよう心がけ、受診日看護師には情報提供、相談報告を行い適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はできる限り病院に出向き病院関係者と情報交換や相談を行い、本人が安心して治療に専念できるよう医療機関とのよい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期ターミナルケアは行っていないが受診本人の状態や今後の治療方針などを主治医と話し合い、家族にも必要に応じて報告、相談を行っている。ホーム内でできる範囲を見極め、医療機関や他事業所と連携に努めている。	入居時に家族に対してホーム内でできることについて説明し、ホームの設備面で医療行為が困難であることや食事対応の困難な点、医療機関等へ転所となることなどを伝え、了承を得ている。入居者の状態によって主治医や家族と話し合い、ホームで可能な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の急変や事故発生時に備えの研修への参加したり定期的に訓練(AED)を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回消防署から来所していただき、消防訓練や点検を行っている。また毎月避難訓練は行っている。時期を見て災害訓練も行っている。職員は日頃から災害の意識を高め防火管理や備品の管理も行っている。地域の方にも協力依頼し緊急時の同意も頂いている。	管理者はホームが木造建築物であることから防火への認識が特に高く、年2回の消防署立ち会いでの避難訓練に加え、毎月消防自主訓練を行うことで有事の際における職員の役割や連携体制を確認し、防災意識の向上に繋げている。また、緊急時の連携体制としてホームと地域住民がSOSネットワークを締結し、職員の役割分担や地域各所の関係者との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、それぞれの状態に合った言葉かけ(方言・呼び名)で対応できるよう心がけている。	ホームでは入居者毎に担当職員を設け、入居者一人ひとりに応じた声掛けや支援方法を職員間で共有している。管理者及び職員は入居者本人の希望に沿った呼称を用い、円滑にコミュニケーションが図れるよう取り組んでいる。今年度計画していた接遇研修はコロナ禍の影響により参加できていないが、次年度参加に向け準備しているところである。	今年度予定していた接遇研修がコロナ禍の影響により参加できていないことに加え、管理者は入居者への言葉遣い等に更なる配慮が必要であることを認識している。今後、接遇研修への参加を通じて職員の更なるプロ意識の向上に繋げていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い希望が言えるような環境、雰囲気づくりを心がけ、自己決定や選択できるよう努めている。また本人の意思を確認して次の行動が支援出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の、その時の心身状態に合わせ思いや希望を尊重し、自分のペースで穏やかに一日を過ごすことができるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望時に行きつけの美容室へ通ったり、本人に合った身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ、負担のない出来る範囲でお手伝いができるよう支援している。利用者のは一緒に、献立も考えてもらえるような声掛けも行っている。	ホームでは食事の準備や台拭き、下膳など入居者本人ができる食への関わりを支援している。食事は入居者の嚥下状態に配慮し、個々に応じた食形態で提供しており、残食があった場合は記録に残し、その原因を職員間で検討し支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々に応じた摂取量や、食事形態、服薬作用を配慮し援助している、また、一日の食事摂取量を把握できるよう記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けを行い、状態に応じた見守りや一部介助を実施、口腔ケア用の物品も考慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、状況に応じて早めの声掛けや誘導介助を行いトイレで排泄できるよう支援を行っている。	職員は排泄チェック表に記録を残すことで入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方の排泄のタイミングに応じた声掛けとトイレ誘導に取り組んでいる。また、尿取りパットやオムツ類の適切なサイズ及び種類の検討についても職員間で随時話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事や水分量を考慮し入居者それぞれに適した体操や活動が出来るよう声かけをしている。薬剤必要時は主治医に相談をし対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の気分や体調に合わせて入浴支援が出来る様心がけている。季節に合わせた入浴方法、入浴剤を準備し支援している。	ホームでは冬場は週2回、夏場は週3回の入浴とし、入居者が入浴を楽しめるよう浴槽にジェットバスを設置している。職員は入居者の体調や希望に応じて支援に取り組んでおり、入浴を拒否する方には誘導方法などを工夫しながら対応するとともに、必要に応じて足浴や清拭などを取り入れながら清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境整備や室温調節を行い、休息、安眠できるように支援している。日中活動できる時間を設け、夜間良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書は通院綴りに添付し、変更時は、通院記録、介護日誌に記載、職員全員が確認できるようにしている。記録、申し送りを徹底し、状況確認を確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人有する力に応じた役割を持ち、張り合い、喜びを持てるよう支援している。活動時は塗り絵や、パズル等促し気候に合わせて散歩で気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見やドライブに出かけ希望者には買い物支援を行っている。体調や天気、気温に合わせて散歩もおこなっている。	コロナ禍の影響により、ホームでは以前のような外出支援は自粛している。職員は天気の良い日には入居者とともにホーム近隣を散歩したり、1階ウッドデッキで日向ぼっこし会話しながら地域住民とも挨拶を交わすなど、外気に触れることで気分転換が図れるよう配慮している。また、ぬり絵やパズルなど室内でもできる楽しみごとを工夫しながら行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で出来る方は自分自身でおこづかい程度の金額を持たせ外出の時に希望があれば買い物出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはその都度対応行っている。職員が家族と電話をしている際本人と会話できる状況を支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はたたみの間にし空気清浄器を置いたり季節の花を飾ったり入居者の作品を飾り生活感や季節感を採り入れ居心地のよい空間づくりに心がけている。	ホーム共用空間には入居者の作品を飾るほか、畳の間を設けて職員や入居者同士で談笑する場として活用するなど、入居者が思いおもいに過ごせる場所を確保している。また、職員はコロナ禍の中でホーム内の清潔保持や換気に留意し、トイレ等の臭気対策も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人思いのまま穏やかに過ごせるよう椅子、ソファ配置を考慮している。、座席の工夫もおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人、家族にも説明し、出来るだけ使い慣れた物や好みのものを用意して頂いたり、本人が居心地の良く過ごせるように工夫している。	入居者本人にとって居室での生活が居心地の良いものとなるよう、ホームでは使い慣れた物や好みの品の持ち込みを家族へ促している。居室は介護の動線に配慮し、身体状況に応じて家具類の配置を行っている。居室内の模様替えを行う際には家族にも説明するとともに、清掃や臭気対策など居室の環境整備は職員中心で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置や座りやすい場所へソファの設置、安全な場所へ家電製品の設置など入居者が安全で出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。		